

地価動向DIが上昇

石川県建協、鑑定士協会

石川県宅建物取引業協会と県不動産鑑定士協会が発表した、10月1日時点の不動産市況DI（指数）調査によると、地価動向DIは住宅地、商業地とも前回調査時（4月1日時点）から上昇した。

地価動向DIは「上昇傾向」とした不動産業者の構成比と「下落傾向」とした業者の構成比の差で、住宅地は前回のプラス19・2から同24・0、商業地は同37

・8から38・1になった。小松市の住宅地、商業地は4回目の今回調査で初めてプラスになった。半年後の

予測は、いずれも現状より下落する見通し。

不動産取引市場について取扱件数の増減を尋ねる質問では「土地・新築戸建」でプラス幅が拡大し、「中古マンション」・中古戸建」でマイナス幅が縮小した。調査は県建協会の259事業者が回答し、県不動産鑑定士協会が集計した。

平成29年12月22日（金）
北國新聞朝刊 第4面

地価動向DIは住宅地、商業地とも上昇

石川県建協、鑑定士協会

石川県宅建物取引業協会と県不動産鑑定士協会は10月1日を基準日とする第4回不動産市況DI調査結果をまとめた。それによると、地価動向DIは住宅地、商業地とも前回を上回った。住宅地は前回のプラス19・2から同24・0、商業地は同37・8から同38・1となった。半年後の次回予測はいずれも

下落する見通しだ。不動産取引市場の動向は、土地・新築戸建は前回のプラス4・8から同11・2に改善、中古マンションはマイナス18・4から同17・4とやや改善、中古戸建はマイナス8・1から同2・7に改善した。次回予測値は土地・新築戸建は悪化、中古マンション、中古戸建はやや悪化する

見通し。不動産賃貸市場の動向は、店舗・事務所の家賃はマイナス15・9から同16・0とやや悪化、空室数はマイナス9・2から同10・0とやや悪化した。次回予測は家賃はやや悪化、空室数はやや改善となっている。共同住宅は家賃はマイナス29・6から同27・3とやや改善、空室数はマイナス7・8から同3・9とやや改善、次回予測は家賃、空室数ともやや改善する。

平成29年12月25日（月）
建設工業新聞 第12面